

令和 7 年度

第 5 3 回 福島県中学校長会研究協議会相双大会
第 2 分科会

令和 7 年 1 0 月 1 0 日（金）会場：南相馬市文化会館《ゆめはっと》
安達支会 本宮市立白沢中学校 清水 健一

研究主題

「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の
創り手を育てる中学校教育」

第 2 小主題【学習指導】

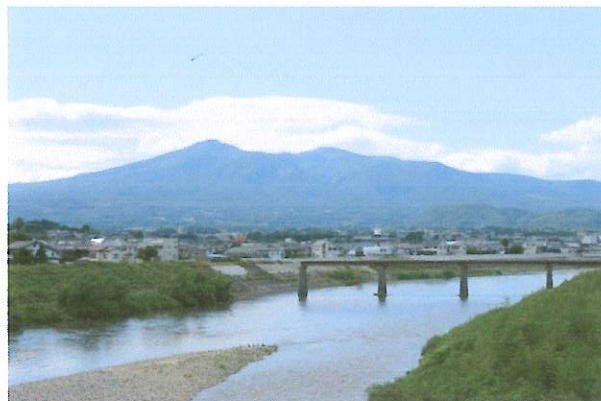
「主体的・対話的で深い学び」の実現

<本日の発表>

☆ はじめに

- 1 研究の方向と視点
- 2 研究の計画と方法
- 3 研究の概要と考察
- 4 成果と課題

☆ はじめに





安達地区の中学校

<二本松市>

二本松第一中学校
二本松第二中学校
二本松第三中学校
安達中学校
小浜中学校
岩代中学校
東和中学校

<大玉村>

大玉中学校

<本宮市>

本宮第一中学校
本宮第二中学校
白沢中学校

合い言葉

「安達は一つ」

安達地区の子供たち

- ・ 穏やかで協調性がある
- ・ まじめに学習活動に取り組む
- ・ 話し合い活動に意欲的に取り組む

課題

- ・ 表現場面では直感的表現が多い
- ・ 自己マネジメント力があまり高くない



教員の育成

1 研究の方向と視点

「主体的・対話的で深い学び」の実現



子供たちのよさを生かす

校長のリーダーシップ

視 点

- 1 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫
- 2 全ての学習の基盤となる言語活動や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上
- 3 全ての子供たちの可能性を引き出す、学習者主体の学びの実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と1人1台端末の活用の推進

2 研究の計画と方法

○ 研究の計画

【令和7年度】（1年次）

- 4月～ 6月 研究主題の設定と研究計画の検討
- 7月～10月 各校での研究実践
- 11月～12月 研究実践の集約及び成果と課題の確認
- 1月 研究のまとめ

○ 研究の方法

視点1
視点2
視点3

} 各校で1つ選択 ➡ まとめ（2年次以降の方向性）

3 研究の概要と考察



視点1 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫

- (1) 発問の工夫と、まとめと振り返りの場の充実により、主体的・協働的に学びを深める実践

校内共通の3つの手立て

- ① 興味・関心を高める課題の設定の工夫
 - ② 粘り強く取り組む学習過程の工夫
 - ③ 次の学びに繋がるまとめと振り返りの工夫
- (発問の工夫を含める)

校長としての
関わり

- ◎ 校内研修の進捗状況を常に把握
- ◎ 教頭、研修主任等と研修の方向づけを行う
- ◎ 教科の境を超目えて手立てを講じる価値を伝える

視点1 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫

- (2) 学校の実態を踏まえた校内体制づくりによる授業改善に向けた校内研修の実践

教師主体 ⇒ 生徒主体 の授業へ

- 校内体制づくり
 - ・ 教科を3グループに分けての授業研究
 - ・ 一人2回の研究授業
 - ・ 指導主事等の招聘による指導・助言
 - ・ 「互見授業期間」の設定（7月、11月頃に約2週間）

○ 授業デザインシートの活用

主体的に学ぶ生徒の「オールイメージ」を明確にした授業デザインシート			
項目	内容	担当者	備考
1. 授業の目的	「授業の目的を明確にする。授業の目的は、授業の目標を達成するために設定される。授業の目的は、授業の目標を達成するために設定される。授業の目的は、授業の目標を達成するために設定される。」	校長	
2. 授業の目標	「授業の目標を明確にする。授業の目標は、授業の目的を達成するために設定される。授業の目標は、授業の目的を達成するために設定される。授業の目標は、授業の目的を達成するために設定される。」	校長	
3. 授業の計画	「授業の計画を明確にする。授業の計画は、授業の目標を達成するために設定される。授業の計画は、授業の目標を達成するために設定される。授業の計画は、授業の目標を達成するために設定される。」	校長	
4. 授業の実施	「授業の実施を明確にする。授業の実施は、授業の目標を達成するために設定される。授業の実施は、授業の目標を達成するために設定される。授業の実施は、授業の目標を達成するために設定される。」	校長	
5. 授業の評価	「授業の評価を明確にする。授業の評価は、授業の目標を達成するために設定される。授業の評価は、授業の目標を達成するために設定される。授業の評価は、授業の目標を達成するために設定される。」	校長	



校長としての
関わり

- ◎ 日常の授業参観を通して教員との対話の時間を大切にする
 - ◎ 校内研修の在り方について丁寧に説明する機会を設ける
- ↓
- ◎ 教員間の積極的な意見交換がしやすい職場の雰囲気、環境づくり

視点1 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫

(3) 校内研修を生かした教員の育成と授業改善の実践

「見る」「聞く」「つなぐ」授業

「主体的・対話的で深い学び」の実現

意識改革・授業力向上
研修部⇒全体

- ◎ 研究の方針を明示
- ◎ 様々な研修の機会を提示
 - ・ 他校の研究公開へ
 - ・ 指導助言者の招聘
 - ・ クラストック等を活用
 - ・ 中教研等の授業研究会の活用



校長としての
関わり

視点2 すべての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上

(4) 生徒の主体的な言語学習活動の実践

- 積極的に学ぶ姿勢を強化
- 自分の言葉で表現し、まとめる
ことで思考力を高める

← 思考の高まりを発信・共有



言語活動を重視



校長としての
関わり

- ◎ 授業における言語活動を校内研修の中心課題として位置づけることを指示
- ◎ 学びに関する課題を明確にし、授業において重点を置く視点を指示



教員のモチベーションを上げる

視点2 すべての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上

(5) 授業やその周辺部を活用した自己マネジメント力の育成の実践

言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上



自ら課題を見つけ、筋道を立てて思考し、整理して、表現



課題



課題



課題

計画的な家庭学習



自己マネジメント力の育成

校長としての
関わり

- ・ 授業における振り返り
- ・ 生活記録ノートや手帳の活用・工夫
- ・ 他学年生徒との交流や家庭学習スパイラルの作成・活用

- ◎ 校内研修で校長の方針を明確に示し、同じ方向で取り組ませる
- ◎ 校長が中心となって業者と連携し、校長の素案を基に手帳等の活用法について具体化させる

視点3 すべての子供たちの可能性を引き出す学習者主体の学びの実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と1人1台端末の活用の推進

(6) 「できる・楽しい」を実感できる授業の実践

身のまわりの事物・事象 → 解決に必然性を感じる課題

「考えをわかりやすく伝え合う活動」
「新たな気づきをまとめる活動」

できる
楽しい

主体的な探究（考え・実行）

校長としての
関わり

- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての解釈のずれを修正
- ◎ 教員の研修に対する意識改革を継続的に行う
- ◎ 専門機関から指導主事等を指導助言者として招聘



視点3 すべての子供たちの可能性を引き出す学習者主体の学びの実現に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と1人1台端末の活用の推進

(7) 子ども一人一人がよさを発揮し、よりよい学びを生み出すことができる学習指導の実践

主体的・対話的で深い学びの実現



様々な人と関わりながら学ぶことが大切 協働的な学び

子ども一人一人のよさを発揮しそれを深める



よりよい学び

授業実践例

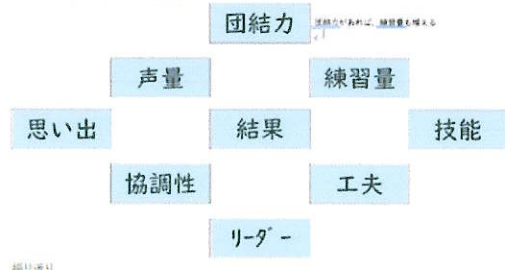
「合唱コンクールを成功させるために大切なものは？」

ダイヤモンドランキング 自分の考え



「合唱コンクールを成功させるために大切なものは？」

ダイヤモンドランキング 協の考え



振り返り

最初は、練習量が一番大切だと思いましたが、はたして人の意見を聞いていくなかで、団結力があれば、練習量も増えるのではないかという意見に賛同した。ほかの協の協を聞いて、結果も一番大切という意見を述べたから、どちらのバランスよく大切にして、全員で納得まで協議していきなさいと思ひました。二人ずつで話し合ったりして、それぞれの協を聞いて、意見を交換してまとめるのは難しいと思った。

- ◎ 研修部で方向性を確認し、同じ方向で実践させる
- ◎ 授業者の思いや考えを反映できる環境づくり
- ◎ 専門機関と連携し、指導助言者を招聘
- ◎ 人事評価の面談を生かし、教員の意識を高める

校長としての
関わり

視点3 すべての子供たちの可能性を引き出す学習者主体の学びの実現に向けた「個別最適な学び」と「個別最適な学び」の一体的充実と1人1台端末の活用の推進

(8) 生徒個々の特性・実態に応じたICT機器の効果的な活用の実践

動画、AIドリル、インターネット 等
デジタル教科書、オンライン 等

「個別最適な学び」
「協働的な学び」



普段の授業で常に活用されているが
今後も継続して

校長としての
関わり

- ◎ 教員のICT活用能力を把握 ⇒ 日頃から活用についての話題
- ◎ 専門機関に依頼して必要な研修を設定
- ◎ 専門家の指導の機会をつくる

4 成果と課題



4 成果と課題

< 成果 >

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、校長が明確な方針を示し、研修部を中心に組み立てることにより、教員一人一人が自分事として捉え意欲的に取り組んだ。また、それが生徒のよさを生かすことにつながった。
- (2) 校内授業研究会等において、教育事務所や教育委員会などの教育機関や教材会社等と連携を図ることにより、より専門的な視点で指導助言をいただき日々の実践に生かすことができた。
- (3) 県の「授業改善グランドデザイン」等を自校化することにより、生徒の学びのゴールをイメージしながら、教師が話す授業からの脱却やICT機器の効果的な活用等を意識した授業改善に繋がった。

4 成果と課題

< 課題 >

- (1) 生徒の思考を深めるためのコーディネート力やICT機器の活用技術などにはどうしても個人差があるので、教師が意欲的にその向上に取り組める効果的な機会を設定していく。
- (2) 校長が代わっても継続的に実践が発展していくような指導体制を確立していく。
- (3) 教員一人一人がじっくりと「主体的・対話的で深い学び」の推進に取り組む時間を確保していく。



働き方改革のさらなる推進



ご清聴ありがとうございました